

第2回 あすの川西町の小学校を考える協議会 検討結果（ワークショップ整理表）

開催日：平成25年8月3日（土）

NO	テーマ	大分類	小項目	具 体 的 内 容
1	学校規模によるメリット・デメリットは何か 《過・小規模校》	《メリット》	「学習指導等」	・ きめ細やかに指導してもらえる ・ 児童に先生や親（地域）の目が行き届く ・ 自然体験などの校外学習を行いやすい ・ 個別指導が充実し、学習のつまずきが少ない ・ 学習に時間がかけられる ・ 児童が授業を理解しているか、教師が判断しやすい
			「人間関係」	・ 学校全体がまとまりやすい（児童、保護者、先生） ・ 子どもたちのつながりが強い（全校生の名前がわかる） ・ 学年を越えた異年齢の交流が盛んになる ・ 先生と児童とのコミュニケーションがとりやすい ・ いじめがうまれにくい ・ 互いに深く関われる
			「子ども・先生・保護者のつながり」	・ 何らかの役員をするので、学校に対し距離が近くなる ・ 生徒、先生のつながりが密になる ・ 先生方のコミュニケーションも深くなる ・ 保護者と先生とのつながりが密になる ・ 教職員同士の意思疎通が深まる ・ 保護者同士、家庭の事情等をお互いに知っており、フォローし合える
			「地域とのつながり」	・ 子ども、先生、地域の関わりが強まる ・ 地域が一体となりやすい ・ 地域とのつながりが深まる（学校との一体化が進む） ・ 地域との連携が図られる（融通がきく） ・ 地域住民が子どもの顔、名前を知っており防犯上、安心である

NO	テーマ	大分類	小項目	具体的内容
1	学校規模によるメリット・デメリットは何か 《過・小規模校》	《デメリット》	「学習活動等」	・先生方の人数の関係上、学習の幅が限定されてしまわないか ・ゲームをする時は、複数学年で（体育） ・複式学級になると他学年の学習内容も耳や目に入り集中しにくいと思われる ・同じ子同士になるので、学びあいに対する機会が少ない
			「学校行事」	・運動や芸術活動など、集団で行う活動の幅が狭くなると思われる ・クラブ活動や行事の選択が少なくなる ・学校行事が不活発になる可能性が大きい
			「交友関係」	・人間関係(交友関係)が固定化してくる ・人数が少なくなると友達関係が狭くなる ・協調性が養われないのではないか ・対人関係につまずきがあると、なかなか修復しにくい（第三者の存在がない） ・人数が多い中学校などへ行った時、馴染めない子がでる ・集団の多様性を育む機会が少ない
			「競争」	・学習、運動面で競い合う機会が少なくなる ・対抗意識、競争心等のライバルを抱く機会が少ない ・競争心がなくなる ・競争が成立しない
			「児童・保護者の負担」	・高学年の一人の役割が大きくなる ・清掃活動が大変になる ・PTAなどの役割が一人ひとり負担増 ・児童に限らず先生もたくさんいたほうがよい
			「登下校の安全面」	・登下校の防犯対策が心配 ・下校時、1人で帰らなければならない児童が出てくる
			「地域」	・プライバシーの意識が低くなる ・保護者同士の考えが偏りがちになる

NO	テーマ	大分類	小項目	具体的内容
2	学校統廃合のメリット・デメリットは何か	《メリット》	「学習・学級活動・学校行事等」	・児童中心の行事（運動会、文化祭など）の内容が充実化する ・集団活動による学習に取り組みやすい ・集団行動が身につく ・統一的に指導でき、組織的に活動できる ・組織的な学校運営ができる ・グループ活動など多くの学習機会が増える ・賑やかで活気が増す ・クラブ活動などの選択肢が増える ・先生の数が多くなり余裕ができる ・いじめや生活面、学習面での工夫が出来るのではないか
			「交友関係・人間関係」（協調性・社会性）	・交友関係が広がる（友達が増える） ・人間関係の広がり（児童間、児童と生徒） ・子供同士の人間関係を多く体験できる ・いろんな先生から学習できる ・様々な考えに触れることができる ・協調性、社会性を養える ・多くの人間と接し人間的に大きくなれる ・価値観、世界観が広がる
			「競争」	・学年間（横のつながり）が強くなり ・切磋琢磨ができる ・低学年よりも高学年になるほど人数が多いメリットが出てくると思う ・競争することで子どもの力が伸びる（学習、運動） ・競争心が向上する ・他のクラスと競うことで、クラスの団結が強くなる
			「児童」	・役割が分担できる ・清掃が楽になる
			「保護者」	・保護者同士の交流が幅広くなる ・PTA活動等負担が軽減される
			「地域活動」	・地区を越えて学区が広がるため、地区と小学校との関わりが変化する（小松の子が東沢でやんちゃ交流するなど） ・体験学習などの幅が広がる ・地域を超えた幅広い付き合いができる ・地域ごとの情報交換ができる
			「施設・設備、負担」	・充実した教育施設、設備が可能となる ・財政負担が少なくなる

NO	テーマ	大分類	小項目	具体的内容
2	学校統廃合のメリット・デメリットは何か	《デメリット》	「学習指導」	・学習面で目が行き届かなくなる（ついていけない児童がでてくる） ・教員が一人ひとりに対応できなくなる ・学習面で細やかな指導を受けられない ・平準化した教育になってしまわないか ・学習面でできる子、できない子の差が開く
			「人間関係」	・目が行き届きにくく、いじめ等の問題が深刻化する ・新しい人間関係を築くのに時間がかかる ・子ども同士の交流が不十分になる恐れが大きい ・小さな学校からきた児童が、大きな学校の環境になじめず孤立してしまう
			「通学」	・通学距離が長くなり、大変になる ・通学距離と通学方法が変わる ・通学に不便な子どもがでてくる ・通学時間（バス）が多くなる ・通学が遠距離になり、児童の心身に負担が大きくなる
			「学校生活」	・送迎の心配やバス時間等、通学距離の違いによりクラブ活動などへ支障がでる ・大きな学校中心の行事に偏ってしまう ・体育館やプールなど、使用時間が限定 ・教職員間の意思疎通が密でなくなるのではないかな
			「保護者」	・PTA活動など人任せになってしまう ・保護者同士のつながりが薄まる ・教育の責任の所在が曖昧になる（学校任せ、他人任せ） ・保護者にとって近くに見えないことの不安 ・冬期間は様々な面で心配が残る ・保護者と学校の関係（つながり）が弱くなる
			「地域との関わり」	・通学がバスとなり、自分の地域をしっかりと見つめる機会が少なくなる ・学校周辺のみ地域としか交流がなくなる ・地域との関わり、つながりが少なくなる ・小学校を中心とした地域見守り活動などは、減少すると思う ・通学班がなくなるなど、地域で子どもの姿が見られなくなり寂しくなる ・「地域社会の共有財産」という側面が失われる ・統合により「隣の学校」が減り、交流する相手校が限られたり交流に負担がかかる

NO	テーマ	大分類	小項目	具体的内容
3	学校統廃合の合意形成はいつ、どのように行うとよいか	《いつ》	「地域・保護者等」	・保護者からの具体的な要望が多く出てきたら ・地域、保護者、子どもが望んだ時点で ・地域の意見が「統廃合賛成」に大多数偏った時
			「学級編成」	・複式学級が発生する前に ・複式学級が発生した時点 ・複式が2学級発生した段階で（複式が2学級発生した学校が多くなった時） ・完全複式学級数が増加したとき（2～3校） ・複式学級が解消される見込みがないと分かった時 ・学級人数が4人をきるクラスができると分かった時 ・1人学級が発生した段階で
			「年度」	・明確な方針、原案（たたき台）ができてから ・地域や保護者への合意等は時間がかかるので、平成25、26年に始めなければ ・段階的に、平成26年度から、平成28年度から、平成30年度から ・平成29年度ころ
		《どのように》	「ルールの明確化」	・一定の統合のルールを作る ・合理的（科学的根拠、法的根拠）かつ丁寧に ・シミュレーションは不可欠（統廃合に起因する町外への人口流出も含めて） ・合理的な裏付けのためには、心理的、医学的見地からのアドバイスも必要 ・望んだ学校、地域ごとに
			「町の方向性を明示」	・川西町としての将来像をしっかり明示する （どのような子ども、大人になってもらいたいのか、人間性など） ・具体的な方向性（時期）を提示しながら考慮すべきところを意見してもらう ・ケースバイケース（事例）を明示する ・他の地域の例を検証し、応用可能なものを参考にする ・将来像、理想像も明示すべき （財政的な観点からの切り口で住民、保護者は納得しない）

NO	テーマ	大分類	小項目	具体的内容
3	学校統廃合の合意形成はいつ、どのように行うとよいか	《どのように》	「関係者への説明」	・保護者（将来の保護者も含め）、地域への説明と意見を十分に聞く ・実施まで十分な話し合い、説明する ・統合によるメリットを十分わかるように（例えば、クラブ活動が増えるとか、学校環境を充実できるとか） ・課題に対する解決策を明確にして、不安を解消する ・現代の子どもの姿を多方面から分析し、その子どもをより良く育めるためには、どのような環境がベストか、様々な方から意見を聞く
			「理解を得るために」	・全ての審議過程を記録し公開する ・地域のエゴは極力抑えるべき ・徹底した討論（学校－町－住民－子ども） ・各小学校のＰＴＡ（保護者）との意見交換会 ・幼児施設（保護者）への説明会 ・あくまでも子供たちの立場で考えるべき ・子供へのアンケート調査及び意見聴取
			「交流」	・統合前に地域間の交流会等 ・学校間の交流をしながら、子どもたちが一緒に活動する機会をつくる
			「施設の後利用」	・廃校施設の有効利用を議論の中に加えて討議する ・地域の核となる学校が無くなった場合の保証を明確にする